

さきょうくしゃきょうだより



マスコットキャラクター
あかりちゃん

「さきょうくしゃきょう」は社会福祉法人京都市左京区社会福祉協議会の略称です

今だからこそ大切にしたい つながり この先に向かってつなぎ直し 一歩ずつ前へ

左京区社協では、『こころのひとり
ぼっちをなくそう』を合言葉に誰もが
安心して暮らせるまちづくりを目指し
様々な取組をしています

知る・学び合う

～地域の福祉課題を知り、理解を深める活動～



認知症サポーター養成講座で認知症の人の
思いを聴き、自分たちにできることを考える

支え合う・助け合う

～支援を必要とする人を見守り、支える活動～



地域での支え合いで
「ちよいボラ（庭木のカットなど）」によるお手伝い

出会う・ふれ合う

～仲間づくりや地域との交流を進める活動～



3年ぶりの大根炊きで笑顔、つながり、再び



コロナに負けず、体操教室でフレイル予防に取り組む

私たちの生活や地域福祉活動に新型コロナウイルスが大きな影響を及ぼしてから3年が経過しました。生活のしづらさや生きづらさを感じる今だからこそ、改めて人や地域とのつながりを大切に活動が注目されています。住みやすい地域づくりのためにできることをみんなで考えてみませんか。

今だからこそ！子ども食堂



近年全国的に注目される子ども食堂ですが、みなさんはどんなイメージをお持ちですか？京都市内には142か所、左京区内にも約20か所の「子ども食堂」と呼ばれる活動があります。今回はその中から「一乗寺こども食堂」さんをご紹介します。

取材の日はいいにくの雨。しかし、いつもの美味しいご飯を楽しみに、お客様で玄関は大混雑。食べ終わった子どもは次の人に席を譲り、玄関先で団子の様になって遊んでいました。彩りゆたかなご飯を真ん中に、大人もほっこり。地域の「みんな」の子ども食堂ということが伝わってきました。

代表者の中崎さんは「コロナ禍で参加者数が2倍以上に増え、持ち帰りとお食の両方への対応でスタッフは手が一杯の状況でしたが、左京区社会福祉協議会の情報交換会をきっかけに、こども食堂「からふる」さんがお手伝いに来てくれるようになりました。

手薄になっていた交流の部分を学生ボランティアさんがしっかり対応してくれ、子ども達も喜んでいました。いつも子ども食堂のことを気にかけて野菜やお米、お菓子を寄付してくださる地域のみなさんにも感謝しています。」とお話しされました。

コロナ禍で「子ども食堂」を運営することは大変ですが、待ってけている地域の人がいます。地域の思いやり、学生ボランティアさんのサポート、運営者の熱意…どれも「子ども食堂」に必要なことです。みんなで支える、みんなの「子ども食堂」、それが一乗寺子ども食堂さんでした。



↑子どもの居場所づくり
「支援の輪」サポート事業の情報はこちら

今だからこそ！オレンジカフェ

オレンジカフェとは、認知症になっても安心して暮らし続けられるまちを目指し、認知症の人やその家族（介護者を含む）、地域住民、専門職など誰もが安心して集い、つながることができる場所です。

新型コロナウイルスの影響により、活動の休止や縮小せざるをえない時期もありましたが、つながりにくい今だからこそ、認知症の人と「ともに」活動する取組が左京区内でも再開しています。

認知症は、私たち自身はもとより、家族や知人をはじめ、誰もがなりえるものであり、多くの人にとって身近な「自分ごと」です。まずはオレンジカフェの活動を知っていただき、認知症の人と「ともに」安心して暮らし続けられるまちづくりについて、一緒に考えることから始めてみませんか。



おれんじサロン さきょうの様子
毎月第3木曜日 13:30~15:00 オープン



自転車で日本中を巡った記録を
まとめた地図を元に、思い出を
語っていただく

区内のオレンジカフェ（一部・順不同）

- カフェ かわごえ ……（浄 楽 学 区）☎ 754-1010
- おれんじサロン さきょう ……（養 徳 学 区）☎ 723-5666
- オレンジカフェ下鴨 ……（葵 学 区）☎ 706-7280
- きららかふえ ……（修学院学区）☎ 723-8077
- 認知症カフェいきいき ……（岩倉南学区）☎ 724-1231
- にこにこ・オレンジカフェいわくら ……（岩倉3学区）☎ 723-0800

（注意）開催時間が変更になったり、中止となる場合があります。予約制のカフェもありますので、必ず事前に確認のうえ、ご参加ください。

この先に向かって！

学区社会福祉協議会重点目標

左京区地域福祉活動計画第Ⅳ期（令和2年～6年）も後半へ。左京区の28の学区社会福祉協議会は、これからの3年の目標を立て、出来ることを着実に積みあげ、オール左京で前に進んでいきます。

新洞学区 地域住民一人ひとりの「ふれあい」を高め、地域各種団体の連携を図り、それぞれの取組に1人でも多くの学区民の参加を促していく。	川東学区 住民自ら取り組み、見守りや居場所づくり、相談事業、防災活動など様々な活動の進め、顔の見える繋がりをつくる。	聖護院学区 フースゴイ！元気いっぱい！和気あいあい！かゆいところ、香りに満ちた聖護院。	岡崎学区 他団体や関係機関と連携強化。新たな担い手の育成。	錦林東山学区 互いに支え合い、声かけ合って、こころのひとりぼっちをなくそう。	吉田学区 障がいのある方もない方も子どもから高齢者まで誰もが「ふれあい」つながるまちづくり。	浄楽学区 民生委員、老人福祉員と連携し、高齢者の見守り活動を充実させます。
北白川学区 災害時の支え合いに向け、普段からの地域の絆を深める取組を進めるとともに、その取組の中で防災の知識を伝えていきます。	養正学区 多世代交流を大きな目的として活動していきます。	養徳学区 「健康すこやか学級」の見直しと内容の充実。	下鴨学区 住みよいやさしい町づくり。	葵学区 社会的弱者が住みやすい地域づくり。	修学院学区 地域のひと々と気軽に楽しく集える居場所を作る。	修学院第二学区 自治会・町内会の改革、建て直しを重点課題とし、誰もが安全で安心して、幸せを感じられるまちに。
上高野学区 左京区社協の「スローガン」こころのひとばつちをなくそう」を意識した各種イベントの実施と体制の強化。	松ヶ崎学区 地域の特性（地縁の深い）と新住民との関わり、地域の誇り、住環境の維持を取りを保つ。	岩倉北学区 「地域のつながり・絆づくり」を広げよう。住民主体の見守り・居場所づくり・相談支援・防災防犯活動等により、地域の中で顔の見えるつながりをつくり出します。	岩倉明徳学区 「地域のつながり・絆づくり」の観点から、①見守り・訪問活動の充実、避難行動要支援者名簿・マップ作成②居場所づくりでは、児童とお年寄りのふれあいの再開、子ども食堂の発展すこやか学級事業の充実を目指す。③基礎づくりから、④財源確保⑤担い手育成⑥各種団体との交流、協働を図る。	岩倉南学区 障がい者への理解を深める福祉教育・市民講座の企画や交流事業を年1回以上実施し、岩倉南の地域をつくり出します。	八瀬学区 防災の取組をさらに進めるとともに、みんなから見える担い手を活動をし、新たな担い手をつくり出します。	大原学区 大原地域の皆様に社会福祉協議会の重要性（介護予防、認知症予防等）を理解していただくよう努力いたします。参加者の増員方法を模索します。各種団体との連携を強固にし、事業を展開していきます。
市原野学区 「近助」支え合い、笑顔あふれる地域の絆。地域のつながり・絆づくり、住民主体の見守り・居場所づくり・相談支援・防災防犯活動等により、地域の中で顔の見えるつながりをつくり出します。	静原学区 「共に支え合い一人ひとりが安心して暮らせる福祉の町づくり」をめざす。	鞍馬学区 住民同士での声かけ・見守り活動を通して、地域での支え合いをすすめます。	花脊学区 居場所、見守り、相談の絆づくりにつなげる事業を企画し、参加する人の気持ち、状態をしっかりと把握していきます。	別所学区 地域のつながりを生かし、見守り活動や声掛け活動を通して、支えあえる別所町づくりを進めます。	広河原学区 六十代の方も楽しみに参加できる健康すこやか学級を企画します。	久多学区 楽しく手伝っていただくことを大切に新たな担い手を育てる。

左京区ボランティアセンター

左京区社会福祉協議会に設置されている『左京区ボランティアセンター』（以下、ボラセン）の機能をご紹介します。

その①「ボランティア相談」

ボランティア活動を始めたい方の面談、見学先・活動先のご紹介など

「ボランティアをしてみたいが、何から始めたらよいか？」というのが一番多いご相談です。「やりたいこと」をイメージし、見学や活動参加に結び付くようにサポートします。面談希望の方は、事前にご予約ください。

その②「福祉教育」

福祉への理解を深めるための講座の実施など

学校や地域へ出向いて、ボランティア入門講座、認知症サポーター養成講座や車椅子体験授業などの福祉講座を実施し、地域福祉への理解、共感、支援の輪を広げていきます。



お話し相手ボランティア講座の様子
～希望者には後日、実際に施設でのお話し相手ボランティアを体験してもらいました～

その③「情報提供」

ボランティア団体への情報提供、助成金のご紹介、ボランティア保険受付など

ご相談いただいた団体・個人へ必要な情報をご案内いたします。また、区内・市内の各種団体・機関のイベントなど、3階ロビーでご紹介しています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。また、みなさまからの寄贈品や寄付も受け付け、必要としている団体へボラセンを通じておつなぎいたします。お気軽にご相談ください。

ボラセンは「自分になにができるかな?」「なにか新しいことを始めてみたい」という気持ちを応援します。

左京区社会福祉協議会では、区内で大きな災害が発生した際には、左京区役所、京都市災害ボランティアセンターと連携し、左京区災害ボランティアセンターを運営します。

本紙に関する内容についてご興味・ご関心のある方はこちら。社協に関する情報は、本紙の他、ホームページ・SNSでもご紹介しています。

社会福祉法人
京都市左京区社会福祉協議会
左京区ボランティアセンター

発行責任者 椎村 悌知

〒606-8103 京都市左京区高野西開町5番地

京都市左京合同福祉センター 3階

TEL 075-723-5666 / FAX 075-723-5665

E-mail s-csw@sakyoku-syakyo-kyoto.jp

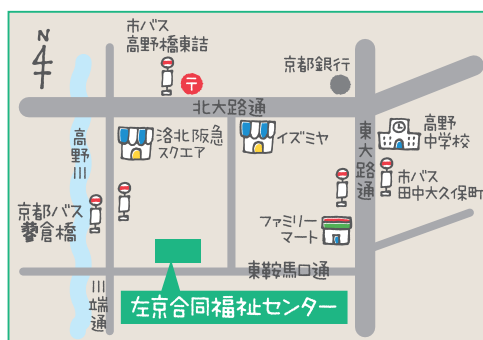
ホームページ <http://www.sakyoku-syakyo-kyoto.jp/>



▲Twitter



▲Facebook



駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。